

児童向けの国際協力のハンドブック作成を通じて地域の児童とのコミュニティの形成を高大連携の形式で実施する取り組み



GLOBAL COMPETENCY EDUCATION MEIJO

(GCEM)

外国語学部国際英語学科 2年 大口 真史・梅田 拓実・平川 真衣・松岡 和弘

代表連絡先：181095016@ccmailg.meijo-u

- > 名城大学外国語学部はグローバル社会の中で世界の人々と対話・協働し、国際社会に新たな価値をつくりだす「世界人材」の育成をめざしている。
- > 外国語学部の学びを通じて国際協力活動、グローバルに活躍することの必要性及びその可能性などについての学びを深めてきた。しかし学内だけの学びだけではなく、学外で実際に国際協力に関係する人からお話を伺いと考えた。

高大連携の強化～2つの目標～

- ① 学部内での学びを生かし青年海外協力隊OB・OGインタビュー、JICA駒ヶ根見学・青年海外協力隊候補生とのお話しを通して実践的に学びを深める。
- ② 附属高校生と共同で児童向けの国際協力についてのハンドブックを作成する。

外国語学部の学びを深める

- 持続可能な開発目標 (SDGs)
 - > 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。
- ・ 日本とグローバル人材
 - > 企業などでグローバルに活躍する方を招き、「グローバル人材」の実際のモデルケースから学ぶことにより、国際的な視野を広げ、実社会で活躍することを目指す。
- ・ 基礎演習ⅢⅣ
 - > 外国語学部アーナンダ・クマール教授
 - > SDGs、JICA、JOCV活動などがキーワード

高大連携の強化

- 高大連携でSDGsと関連のワークショップ
 - > 高校生の学びが深化するとともに、高校生が能動的に学びを得る。
 - ・ 2018年10月グローバル人材育成教育学会「名城大学附属高校生×名城大学外国語学部生 高大連携学生シンポジウム2018」
『学生たちが考えるグローバル化』
～食・生物・グローバル化の意義から考える～」を学生主体で企画から発表
 - > 継続的に行うことが課題
- 課題解決
- ・ 名古屋市下水道科学館で理科実験教室

地域連携

- 児童を対象にしたワークショップ
- 持続可能な開発目標 (SDGs) は2030年までの達成目標である。つまり今の児童が10年後、中学生あるいは高校生になる。その時に、少しでも知識があれば意識の変化に与えることができる。
- > 児童を対象にした世界の食べ物及びセイロン瓜・バジルシードを用いたワークショップを開催

外国語学部の学びを深める

- 持続可能な開発目標 (SDGs) > 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。
- 日本とグローバル人材 > 企業などでグローバルに活躍する方を招き、「グローバル人材」の実際のモデルケースから学ぶことにより、国際的な視野を広げ、実社会で活躍することを目指す。
- 基礎演習ⅢⅣ > 外国語学部アーナンダ・クマール教授 > SDGs、JICA、JOCV活動などがキーワード

SLACJ6th International Conference on Indo-Pacific Studies 2019への参加

2019年6月8日9日国際大学でスリランカ出身者で中心に構成されている国際学会SLACJ6th International Conference on Indo-Pacific Studies 2019に参加した。

・目的

これまで行ってきたセイロン瓜を始めとした地域連携についてを海外研究者の視点から知見を取り入れること。

・実施内容

6月8日は新潟県の奥只見ダム・発電所内部見学日本語とシンハラ語と英語が混じり合うガイドが記憶に残る。

6月9日は発表日であった。スリランカの食が地域の児童に影響にあたえる影響の観点で発表を行った。初めての形式で慣れない部分があったが、良い機会となった。



JICAセミナーの開催

2019年11月、本学ナゴヤドーム前キャンパスで行われた大学祭にてJICAセミナーを実施した。JICA海外協力隊及び青年海外協力隊OG 2名の方を講師として招待し、実際に活動の体験談を発表していただいた。

・目的

児童向けのハンドブック作成において、青年海外協力隊OGの体験談を参考にするため。

・実施内容

2名のOGの経験談をもとにして以下のケーススタディをグループワークとして実施した。

- ・「もし、お金をねだられたらどうしますか。」
- ・「ごみのポイ捨てをみたらどのようにしますか。」



JICA駒ヶ根訓練訪問

2019年9月に長野県のJICA駒ヶ根青年海外協力隊訓練所にて行われた訓練所体験プログラムに参加した。

- ① 青年海外協力隊とは何かを理解する
- ② 語学授業の体験講座

- ③ 青年海外協力隊のOB、OGの方々との対話

・目的

国際協力についての実践的な学びを深める。

実施内容 ②について

シンハラ語・スペイン語・ネパール語の語学講座され、短期間での語学習得において重要な考え方や学び方を講師の皆さんからユーモアを交えながら教えていただいた。

③について

タイ、ポリビアなどの国で理学療法士や助産師などの分野で活躍された方から伺った。



高大連携の強化

- 高大連携でSDGsと関連のワークショップ > 高校生の学びが深化するとともに、高校生が能動的に学びを得る。
- 2018年10月グローバル人材育成教育学会 「名城大学附属高校生×名城大学外国語学部生 高大連携学生シンポジウム2018 『学生たちが考えるグローバル化』～食・生物・グローバル化の意義から考える～」を学生主体で企画から発表> 継続的に行うことが課題

高大連携によるPBL学習

2019年8月「ワクワク理科実験 水の大切さを知ろう」を小学生対象に名古屋市下水道科学館で名城大学附属高等学校 スーパーサイエンスクラスの生徒と連携して実施した。

・目的

児童に対して、理科実験を通し、日常生活の中で世界の水問題に関心を持ってもらう。

・実施内容

- ① 大学生＝世界の水問題に関するクイズ「安全な水が飲めない人は世界に何人いるでしょう？」などの問題。
その結果、参加した児童の大半が全問正解で既に世界へ関心があることに驚いた。
- ② 高校生＝表面張力・気化熱・浄化の3つの要素を踏まえてた実験を中心に行った。



マーブリングの実験



水の浄化の実験

地域連携

●児童を対象にしたワークショップ

2019年6月名古屋市下水道科学館で児童を対象にスリランカ原産の野菜セイロン瓜のイベントを開催した。

目的

- ・海外の食文化及びセイロン瓜を通じて」国際理解の推進を図る。



スリランカ原産の野菜 セイロン瓜

実施内容

1. セイロン瓜の知識習得
2. セイロン瓜を植えて収穫
3. セイロン瓜の試食



まとめ

1. JICAセミナーの開催においては、主に集客の面から一口に成功といえるものではなかった。
しかし、地域の方とも触れ合うことができたことは、私たち自身にとって大きな収穫となった。
2. 児童たちに向けての“魅せ方”を吸収することができた素晴らしい機会であった。
3. 自分たちが児童たちに伝えていくべき国際協力に関する事柄も明確になった。